

熊本高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	経済学	
科目基礎情報							
科目番号		0195		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		機械知能システム工学科		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		1	
教科書/教材		必要に応じて内容に関連する資料を配布する。					
担当教員		時松 雅史					
到達目標							
本講義では古典派経済学からマルクス経済学、さらにはケインズ経済学の基本的な理論を理解することを目標とする。また株式や先物取引の仕組みについて理解し、簡単な金利計算ができることを目標とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 経済学の分類と古典派経済学、マルクス経済学について		スミスからフリードマンまで経済学の変遷を理論や著者名を挙げながら説明できる。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について論理的に説明できる。		スミスからフリードマンまで経済学の変遷の概略を端的に説明できる。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について端的に説明できる。		スミスからフリードマンまで経済学の変遷の概略を端的に説明できない。またマルクスの商品・貨幣・資本の理論について端的に説明できない。	
評価項目2 マルクス経済学とケインズ経済学		マルクスの生産論について論理的に数式を用いて説明できる。ケインズの有効需要の理論について説明できる。		マルクスの生産論について端的に説明できる。ケインズの有効需要の理論について端的に説明できる。		マルクスの生産論について端的に説明できない。ケインズの有効需要の理論について端的に説明できない。	
評価項目3 株式、先物取引、金利計算について		株式会社と株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の成立と仕組みについて説明できる。金利計算は複利計算とローン計算ができる。		株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の仕組みについて説明できる。金利計算は複利計算とローン計算ができる。		株式について基礎的用語を用いて説明できる。先物取引の仕組みについて説明できない。金利計算は複利計算とローン計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		アダムスミスやリカードをはじめとする古典派経済学の理論からマルクス経済学やケインズ経済学等を学習する。さらに株式市場や先物取引の仕組みを学び、金利計算もおこなう。					
授業の進め方・方法		授業中に配布するプリントをもとに黒板を使って講義する。プリントは学生に輪読させることもある。授業の終わりにごろに学生からの質問・意見の時間も設定する。					
注意点		総合評価の点数、中間と期末の平均点が60点を満たない場合には再評価の試験を行うことがある。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・経済学の分類		経済学を大きく分類してキーワードを使って説明できる。		
		2週	古典派の理論 1		アダムスミスの基本的な理論をキーワードを使って説明できる。		
		3週	古典派の理論 2		リカードの基本的な理論を表を用いて説明できる。		
		4週	限界学派について		限界効用の理論について説明できる。		
		5週	マルクスの理論 1		商品とは何かについて説明できる。		
		6週	マルクスの理論 2		価値形態論から貨幣の必然性について説明できる。		
		7週	マルクスの理論 3		資本の価値増殖について説明できる。		
		8週	中間試験		到達目標の達成度を確認する。		
	2ndQ	9週	株式市場と現代経済 1		株式の基本的な知識を獲得する。		
		10週	株式会社と現代社会 2		株式売買のシミュレーションにより株価の動向について検証する。		
		11週	ケインズの理論 1		有効需要の原理について説明できる。		
		12週	ケインズの理論 2		乗数理論について説明できる。		
		13週	新古典派の理論		自然失業率仮説について説明できる。		
		14週	先物市場と現代社会		先物取引の成立と仕組みについての知識を獲得する。		
		15週	金利計算		複利計算とローン計算を簡単な計算式を用いて計算できる。		
		16週	定期試験の解説		定期試験の問題を再確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。		3	前9,前10
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。		3	前7
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0